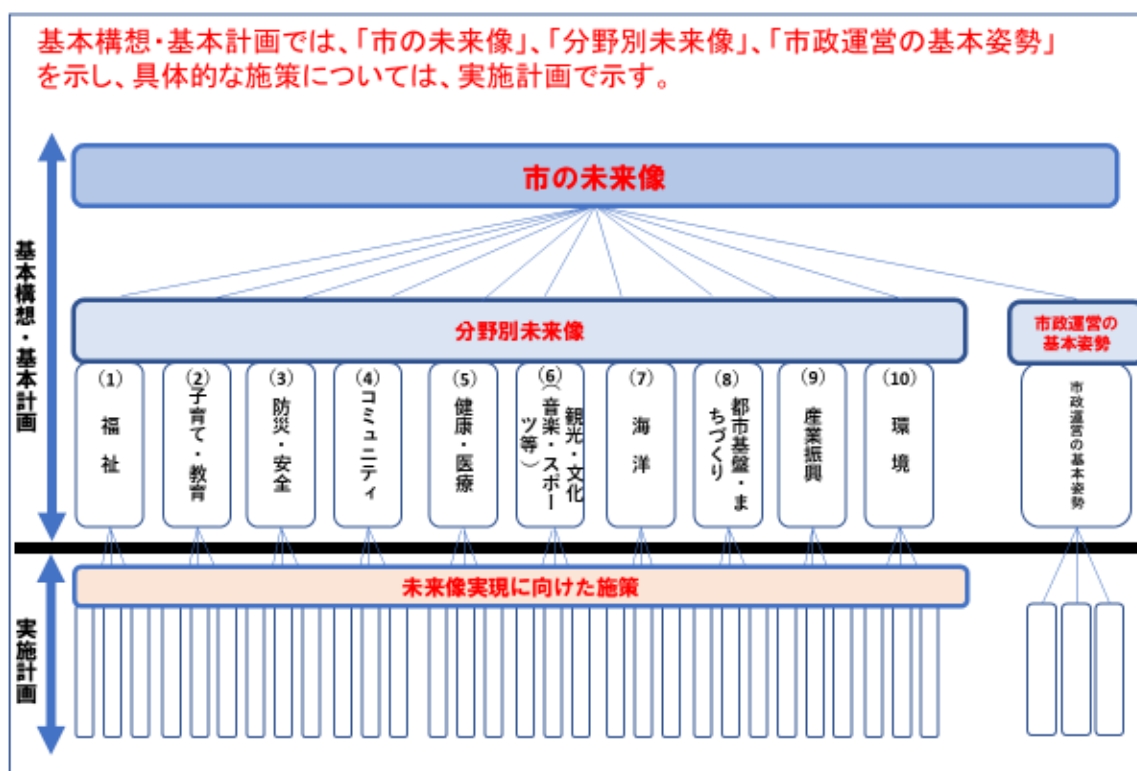


次期基本構想・基本計画 ((仮称) YOKOSUKAビジョン2030)

【草稿 (たたき台)】

計画構成 (イメージ)



1 市の未来像

市全体が進むべき未来の方向性。

このような時代であるからこそ、人々の心に灯りをともし、希望と力を与えるような未来像を示したい。

※この未来像はあくまで例示

- ①国際海の手文化都市 ②国際海洋文化都市
- ③誰もが心豊かで健康で暮らせる都市
- ④変化をチャンスに変えるまち。横須賀市
- ⑤一人ひとりが輝くまち海に開かれた国際観光都市
- ⑥海と緑と人が共生するまち ⑦自然豊かな環境共生都市
- ⑧逆境を力に変える。横須賀市 ⑨地域愛やコミュニティが育まれる都市
- ⑩人と文化と自然が調和したまち ⑪誰もがいきいき暮らすまち。よこすか
- ⑫誰もが幸せを感じるまち ⑬海と緑、幸せあふれるまち。横須賀
- ⑭多様ないのちが輝くまち。よこすか
- ⑮海と緑の恵み、人が輝き挑戦しつづけるまち。よこすか
- ⑯変わらないために変わるまち。横須賀
- ⑰いつまでも安心・安全で快適に暮らせるまち。よこすか
- ⑱未知への挑戦を続ける街。横須賀市

【未来像のキーワード（特別委員会からの提案事項より抜粋）】

海（海洋、海の手）、自然、共生社会（人と人、人と自然）、協同、創造
新しい生活様式や社会経済活動の変化（コロナ禍を念頭に置いたもの）、
稼げる自治体、自立した自治体、人材育成、若者、多様性、幸せ、
住み続けたい街、挑戦、あらゆる変化に対応、支えあい、安全安心

※以下に未来像を解説する文章 or 小説 or 詩 など

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

2 計画の根底に流れる価値観

未来像に示された未来へ進むにあたって、何を大事にしたいのか、忘れてはならない心。
つまり、計画の根底に流れる思想、哲学を示す。

【価値観のキーワード（特別委員会からの提案事項より抜粋）】

支えあい（誰も一人にさせない）／共生／協働／創造／多様性（他者を認め合う）／幸せ／挑戦

（例）

テクノロジーの変化や社会環境の変化など、変化の激しい時代の中だからこそ、変わらず
持ち続けなければならないのが、市民一人ひとりが互いの存在意義を認め合い、誰もが誰
をも支え合う、愛情に溢れた人の温もりが感じられる人間関係です。市民一人ひとりの幸
せを追求してくためには、この「誰も一人にさせない」という価値観を、全ての政策にお
いて大切にします。

3 時代背景

時代背景から、計画をつくる必要性を示す。

（例）

●考慮すべき時代背景

- ・急激に進む少子高齢化 ・地域の繋がり希薄化 ・空き家の増加
- ・産業構造の変化と経済の低迷
- ・自然災害への不安の高まり ・AI等テクノロジーの進化
- ・新型コロナウイルスなどの感染症に対する不安、それに伴う生活様式や社会経済活動の変化



●以上のような状況で悲観的になるのではなく、

- ・今までの前提となっていた、技術、価値観、社会構造等が変化しているため、考え方を転換するとともに、横須賀市の価値を再認識、再定義し、横須賀ならではの豊かさと強みを引き出していく必要がある。
- ・そのために、このような状況下だからこそ、市民、行政がともに未来に向かって前向きに進んでいくために、ビジョンを策定し、共有する必要がある。

4 分野別未来像【赤字部分は、特別委員会からの提案事項より抜粋】

(1) 福祉

全ての人が自分らしく幸せに生きられるまち

日々の生活に不安を抱えている方々に寄り添い、誰一人社会から孤立させないこと。すべてのひとが地域社会の一員として社会に関わり、誰もがどこかにつながり、どんな人でも自分らしく幸せに生きていけるまちの実現のために、包括的な支援体制を整備し、共に前に進んでいきます。

- 福祉とは、可能性を引き出すこと。

人は誰もが幸せになるために生まれてきます。時として金銭的なことや心身のことなどが、この可能性を閉じ込めてしまうことがあります。このような阻害要因を皆で手を取り合って取り除いてその可能性を引き出していく。これこそが横須賀の福祉です。

- 新しい福祉を追及する。

福祉全体に対する固定観念、「意識のバリア」を打ち破り、テクノロジーを活用した、社会に対して新しい産業や価値を提案する福祉、また、思わず働きたくなる福祉現場とは。少子高齢化の先進都市である横須賀「だからこそ」考えられる未来へ繋がる福祉とは。それを念頭に、率先して追求、実践していきます。

未来のストーリー2030

市民の「想い」や「願い」を基に描く
2030 年の横須賀のストーリー

施策の目標（例）

- ・ 誰もが社会参加できる機会づくり
- ・ 地域福祉サービスを支える人づくり
- ・ 地域福祉サービスを支える場づくり
- ・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

イメージ写真・イラスト



(2) 子育て・教育

いくつになっても育てあうまち

育つことと育てること、教わることと教えることは、共に人を成長させる素晴らしい機会です。

我々には、人生の様々な局面でその両方の機会が訪れます。

そのチャンスをより多くの人に提供し、人生 100 年時代、人生を通して、成長の喜びを感じられるような仕組みを作っていきます。

➤ 子どもがすこやかに育つ環境づくり

横須賀で子どもを産みたい、そして育てたい。そう思えるように、子育てに喜びや充実感が持てる環境を実現したい。

出産前から、妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援を行うと共に、未来を担う子どもを通じて、親が育つ、地域が育つ社会にします。

また、**経済的な格差や家庭環境**によって、未来ある子どもたちの大切な機会を奪う事がないよう、**様々な子育ての形態に対応した取り組みを進めて**いきます。

➤ 未来社会を自立的に生きる力を育成します

急激な社会変化の中でも、その変化を前向きに受け止め、自立的に生きるために必要なのは、人間性の豊かさと**基礎学力**です。

学校教育において育成するのはもちろんのこと、学校・家庭・地域が一体となって**みんな**で子どもを育てる**環境づくり**を行っていきます。

➤ 新たな子育て・教育のあり方とは

先進的なオンライン教育を導入など、**社会構造の変化に即した教育環境を整備**していきます。**また少子化に対応した、新たな子育て、教育のあり方**を探求していきます。

➤ 学びに年齢は関係ありません

誰もが、あらゆる機会、あらゆる場所で学習でき、**成果を活かせる環境**を。

地域には多様な経験を積んだ人が暮らしています。さまざまな人に教える機会と教わる機会を提供していくことは、教育と**生涯学習**をより多様で豊かにしていきます。

未来のストーリー2030

市民の「想い」や「願い」を基に描く
2030年の横須賀のストーリー

施策の目標（例）

- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

イメージ写真・イラスト



(3) 防災・安全

繋がりと備えが安心を生むまち

安心と安全。

大切なのは、それが壊されたときに最悪の事態を避けること。

平時だからこその、日常的な備えや地域の繋がりの構築が大切です。

都市構造の強化に加えて、この意識を醸成していきます。

- with 災害。だが災害に負けない

深刻化する災害に対してもできる限り被害は未然に防ぎたい。しかし防ぎきることはできないのも事実です。必要となるのが、被災時にも「機能する」まちであり、被害を最小減に抑える「減災」。そして、被災後にいかに早く「復旧」するかです。

そのような新たな観点からライフラインを強靱化し、対応可能な行政力を構築していきます。

- 地域の繋がりが、地域の安心と安全に繋がる

安心や安全は、災害や犯罪に強い都市構造だけでは約束されません。

日頃から防災や防犯に自分ごととして向き合えるか。また、地域の他人同士がどれだけ繋がり合っているか。災害や犯罪に対する「自助」ひいては「共助」の体制が必要不可欠です。

横須賀市は、都市構造を整備するだけでなく、こうした意識の向上や、繋がりの強化を促進していきます。

未来のストーリー2030

市民の「想い」や「願い」を基に描く
2030年の横須賀のストーリー

施策の目標（例）

- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

イメージ写真・イラスト



(4) コミュニティ

自分たちでつくるまち

リモート化の進展により、バーチャル上の人間関係が活性化する一方、リアルな対面の人間関係は、職場や学校といった単位から、近隣や家族といった単位に比重が置かれます。

いわば地域での触れ合い、助け合いが求められる、昔からあったコミュニティの姿です。近隣他都市より町内会の加入率が高くコミュニティの力が強いと考えられる横須賀は、この面が強みとなります。

先人たちが築き上げた、この繋がりを守っていく、そして多様性を認め合い、住民自治の力の向上を図ることで、更なる価値をつけていくことが、横須賀の飛躍へと繋がります。

➤ 支え合う地域、繋がる仕組み、をつくる

人種・性別・年齢などの壁を越え、「誰かが誰かを支える」のではなく、「誰もが誰をも支え合う」。また地域社会の中で、全ての人がどこかに繋がる。そんな社会を実現していきたい。

➤ 多様性が生む、新たな地域の力

私たちは一人ひとり、性別・障害・人種・国籍・門地・年齢、そして考え方だって、何もかも違い、同じものを見ても、まったく違うことを感じます。でも私たちは、その多様性を認め合うことにより、新たな地域の力を生みだすことができます。

あなたの見方が、私にとっての学びに、私の見方があなたにとっての学びに、あなたにできることは私の力に。私にできることはあなたの力に。その連鎖によって地域社会はもっと豊かになります。

未来のストーリー2030

市民の「想い」や「願い」を基に描く
2030年の横須賀のストーリー

施策の目標（例）

- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

イメージ写真・イラスト



(5) 健康・医療

健康がすぐそばにあるまち

住み慣れた地域でいつまでも健康で過ごすためには。

充実した医療の提供基盤に加えて、一人ひとりの**健康寿命延伸**の取り組みが必要です。

楽しみながら、繋がりながら。

先端技術も活用し、ライフステージに応じた健康増進の取り組みを進め、**ゆりかごから墓場まで**、安心して過ごせるまちを目指します。

➤ 健康と充実した医療の提供基盤が安心を生む

市民の健康、医療にかかわる関係機関と積極的に連携を図り、**リモート遠隔医療**も取り入れながら住み慣れた地域で必要な医療を受けつつ、健康に過ごせる仕組みを充実させることで、全ての人がより安心して暮らせるまちにしていきます。

このような充実した横須賀の福祉・医療体制は、**域外の人を対象とした稼ぐ産業**へと変遷していく可能性も秘めています。

➤ いくつになっても元気でいきいきと輝く

スポーツは心身の健康に良い影響を与えます。それはスポーツ自体の効果だけでなく、スポーツを通じた人と人とのつながりが生み出す効果でもあります。

この効果を活用し、健康づくりを目的としたネットワークの構築も行っていき、生涯を通じて心身ともに健康でいられるまちを目指します。

➤ **ゆりかごから墓場まで**

あらゆる分野のリモート化の進展は、住む場所の制約を無くしていくでしょう。

しかし、**充実した医療体制**と人口に応じた福祉体制。この世に生を受け、住み慣れた地域で生涯を終えるためには、この二つは地域に必要不可欠なものとして残ります。

これがある横須賀。今後その輝きは更に増していきます。

未来のストーリー2030

市民の「想い」や「願い」を基に描く
2030年の横須賀のストーリー

施策の目標（例）

- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

イメージ写真・イラスト



(6) 観光・文化（音楽、スポーツ、エンターテインメント）

ワクワクがあふれ出すまち

横須賀のあらゆる地域資源を活かし、アート、音楽、スポーツ、エンターテインメントの力を融合させて、身近にアート、音楽、スポーツ、イベントがあふれ、まずは市民が絶えずワクワク・ドキドキできる、自然と外出したくなる、誇りや愛着が持てるような仕掛けをつくっていきます。

そこで生まれた熱量は、外部にも伝搬します。横須賀でしか体験できないこととしてPRし、外部からの集客にも繋がります。

➤ 横須賀全体がワクワクのフィールドになる

特定の施設、特定のイベント、街なかだけがワクワクのフィールドではありません。横須賀全体がフィールドです。この視点で見ていくと、今まではあって当たり前だった歴史的遺産、アート、音楽、芸能等、横須賀の秘めたポテンシャルにも新たな角度から光が当たっていきます。

➤ 文化の醸成

音楽やアートなどの文化は、様々な世界を表現し、人の心を震わせる力があり、それはどんなに社会環境が変化しても、変わることはありません。

いつでもどこでも音楽に触れられる街、様々なアートを感じる街、横須賀は、そんな街でありたい。そして、その環境からさらに音楽やアートの深い世界に挑戦するアーティストを応援し、育てる。彼らに表現の舞台を提供し、送りだしていくことは、その地域の活気にも繋がっていきます。

➤ プレイヤーだけがスポーツの主役ではない

プレイヤーとして、あるいは手に汗握る観客として、誰もがスポーツに挑戦できる機会をつくっていきます。また、ボードレスに楽しめる多様なスポーツの普及やトップアスリートとの連携・交流にも取り組んでいきます。

そしてトップアスリートの活躍を見た人が、チャレンジしてみたい、より上手くなりたいという思いにこたえる環境を充実させ、世界で活躍する横須賀育ちの代表選手を輩出し、皆で支え応援していきたい。

未来のストーリー2030

市民の「想い」や「願い」を基に描く
2030年の横須賀のストーリー

施策の目標（例）

- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

イメージ写真・イラスト



(7) 海洋

可能性だらけの海を活用するまち

横須賀の海は、特別な存在です。

豊富な海産物に、海を眺める、公園、カフェ・レストラン、釣りやマリンスポーツに適した環境、豊かな自然がある一方、歴史遺産や研究機関が存在し、多様な魅力と可能性を持っています。

この多様性を強く意識し、最大限まちづくりに活用していきます。

➤ 東海岸と西海岸。2つの顔がある

東京湾側に面する東海岸。ここには歴史的遺産や世界最先端の研究開発機関が存在しています。そこを周遊できる環境整備や研究開発機関との連携を図っていきます。

一方で相模湾に面した西海岸側は、風光明媚な海岸線や、緑豊かな自然、豊富な農・海産物などがあり、より多くの人が身近に堪能できるよう支援していきます。

➤ ウィンドサーフィンといえば横須賀、だけでは終わらない

横須賀の津久井浜海岸はサイドショアが安定して吹く最高のゲレンデだと言われております。

日本で唯一ワールドカップが開催されてきたその地で、国内外のライダーだけでなく、幅広い世代のビギナーに向けた普及や、ウィンドサーフィンを契機とした取組により、横須賀全体に活性化の風を吹かせていきます。

➤ 稼ぐ。そして守る

港湾機能の利活用を強化し、戦略的に攻めのポートビジネスを展開していきます。

海洋産業も、水産物の採取、養殖、加工、をはじめとして、生活文化を地域資源とした観光、物流と無限の可能性を探っていきます。

このような特別な存在である海を守る。それは活用と共に我々に課せられた使命です。研究開発機関とも連携した担い手育成のための海洋教育や、マイクロプラスチック対策など、海への恩返し的心を持ちつづけます。

未来のストーリー2030

市民の「想い」や「願い」を基に描く
2030年の横須賀のストーリー

施策の目標（例）

- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

イメージ写真・イラスト



(8) 都市基盤・まちづくり

誰もが安心して住み続けられるまち

コンパクトで歩いて暮らせる拠点ネットワーク型都市づくりを進めながら、地区に存在する魅力資源を最大限に活用した都市づくりを行っていきます。横須賀にかかわる多様な人々と手を組みながら、新たな価値を見出し、多様なコミュニティのあり方を創造します。

➤ いくつもの住まい方がある横須賀

拠点市街地での便利な住まい、海を間近に感じるリゾート感のある住まい、「食と暮らし」を実践できる田舎型の住まい、独特の閑静な雰囲気や景観をもつ谷戸の住まい、美しい街並みの中で快適に暮らせる住宅団地の住まいなど、横須賀には多様な住まい方があります。リモートワークやリモート教育の未来を見据えそれぞれのコミュニティの魅力を再発見し、最大限に引き出していきます。

➤ 交通環境にも地域に応じた個性がある

都市間、コミュニティ間の連携を強化するため、道路や公共交通、歩行者、自転車の交通環境等を、それぞれのコミュニティの個性に応じて整備していきます。

急な坂、階段、狭い路地など、横須賀の地形的特徴や、少子高齢化が先行的に進行している横須賀。これらを横須賀のポテンシャルと捉え、時代の変化に応じた先端モビリティの実装フィールドとして、自由な移動の可能性を追求し、その先に、人々の交流の活性化や、移動自体をワクワクさせる新しい価値を提供します。

➤ 可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合

可能な限り米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合を国に要請します。また、返還施設は、都市活力の創造に向けて、早期に転用します。

未来のストーリー2030

市民の「想い」や「願い」を基に描く
2030年の横須賀のストーリー

施策の目標（例）

- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

イメージ写真・イラスト



(9) 産業振興

失敗を恐れない**挑戦者**を応援するまち

横須賀は、大小の産業の理想的な共存を目指します。

既存の産業を支えつつ、そこに新たな産業が融合することによる**イノベーション**を促進し、生ずるビジネスの多様性や**付加価値**を横須賀の強みとしていきます。

その種となる新たな起業家の挑戦や、起業家同士の連携を後押しする体制も整えていきます。

➤ ビジネスチャンス、は横須賀にあり

横須賀には「society5.0」を実現するために必要不可欠な技術を持つ**先端技術施設及び研究開発機関**や企業が集結しており、産学官の参画で取り組んでいく横須賀発の新技术の発信や、それを活用した**先進的なまちづくり**が期待されます。

このようなフィールドで、まだ誰も挑戦していない未開のビジネスや、実験的なプロジェクトの**挑戦者**を積極的に後押ししていきます。それだけでなく、参入した企業同士の連携も手助けしていきます。

➤ 中小企業や個人商店が輝けるまちであること

横須賀独自の地域性に密着した産業、会社、商店を、業種を問わず応援していきたい。また、その中での連携、融合は**新たな価値**を生み出すきっかけとなります。その後押しを行い、横須賀ならではのビジネスを誕生させます。

➤ 連携のその先へ

市内にある様々な**研究開発機関**との連携を強化していきます。

連携の先には、**ビジネス**へ繋がるヒントがたくさんあります。

それを紐解き、**ビジネスを創造する**環境を整え、「**稼げる自治体**」であることを意識していきます。

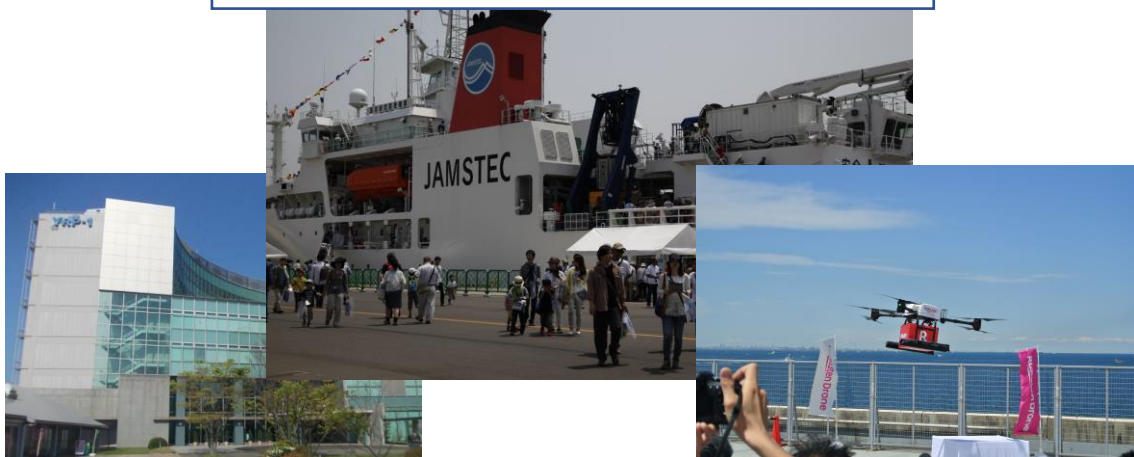
未来のストーリー2030

市民の「想い」や「願い」を基に描く
2030年の横須賀のストーリー

施策の目標（例）

- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

イメージ写真・イラスト



(10) 環境

「自分ごと」の意識が未来を守るまち

快適な生活環境や横須賀が誇る豊かな自然環境を維持すること。

このために必要なのは、「自分ごと」と考えること。

「自分ごと」として向き合うと、課題同士、担い手同士の繋がりが生まれます。

この繋がりがこそ、**持続可能なまち**の未来への切符です。

➤ 環境問題を自分ごとを考える

持続可能な環境を実現するのに一番大切なのは、一人ひとりが日常生活において、環境にかかわる問題を自分ごととして考えること。

まずは、自分の生活の中でできる、食品ロスや毎日のごみを減らす、リサイクルを推進する、エネルギーを節約するといった身近な取り組みを推進し、未来へとつづくまちを目指します。

➤ 自然環境は横須賀の財産である

恵まれた自然環境は、我々にとって大きな魅力となっています。

リモートワークが当たり前となった今、その価値は更に高まりを見せています。

それと同時に我々には、**自然環境の保全、創出**に取り組み、これを、将来の世代に引き継いでいく使命が課されています。

この意識を一人ひとりが持てる仕組みを追究していきます。

➤ 私たちと自然が一緒に育んできた環境

農業も横須賀の魅力の一つであり。私たちは、豊富な食材と**生活文化**を育んできました。さらに、農地は、食材を作るだけでなく、それ自体が**国土の保全**としても大切な存在になっています。

これらからは、様々なテクノロジーの力を借りて**生産量を確保**しながらも、自然と調和し、私たちの**生活文化**と農地を同時に守っていく必要があります。これは、そこで働く人だけではなく、みんなの挑戦として取り組みます。

未来のストーリー2030

市民の「想い」や「願い」を基に描く
2030年の横須賀のストーリー

施策の目標（例）

- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

イメージ写真・イラスト



5 市政運営の基本姿勢

このビジョンで描かれた未来像を実現するために、横須賀市は4年毎の「実施計画」をつくります。そして横須賀市は以下を意識した集団であることを目指します。

- **超高効率**で健全な行財政運営を行う自治体であること。

デジタルガバメントの推進と共に徹底した**行財政改革**を行い、安定した財政基盤を確立し、**持続可能な**行財政運営の構築を行います。

公共施設については限られた財源の中、需要に応じた適正な規模にしていくとともに、**ユニバーサルな社会環境**を意識しつつ、施設の利便性を高めていくことを目指します。

- 市民、企業、団体と率先して連帯すること。

このまちを支えているのは連帯する力です。あらゆる垣根を越えて、立場や職種を超えてみんなで連帯する社会を行政が自ら率先して作っていきます。

また、市という枠組を超えて、三浦半島の4市1町など、自治体間の連携も強化します。

- 変化を恐れぬスピード集団であること

新しい時代を切り開いていくには、変わり続けていく多様なニーズに、最速のスピード感をもって完遂する集団であり続ける必要があります。

そのために、変化を恐れず時代の局面にあった発想ができる職員を育成します。

- 固定観念、先入観を排すること

限られた職員数で、増大する行政需要に的確に応えるため、仕事のやり方を根本から見直すことで、職員を縛っている無駄なルール、無駄な仕事を一切取り除き、**A I 等先進技術**や**ビッグデータ**も積極的に駆使しながら、**市民を手続から解放する**と共に、現在そして未来の市民のための創造的な仕事に重点を置きます。

働き方も同様です。**リモートワーク**を含めた職員の**多様性**に応じたワークスタイルを導入し、ワークライフバランスを重視していきます。